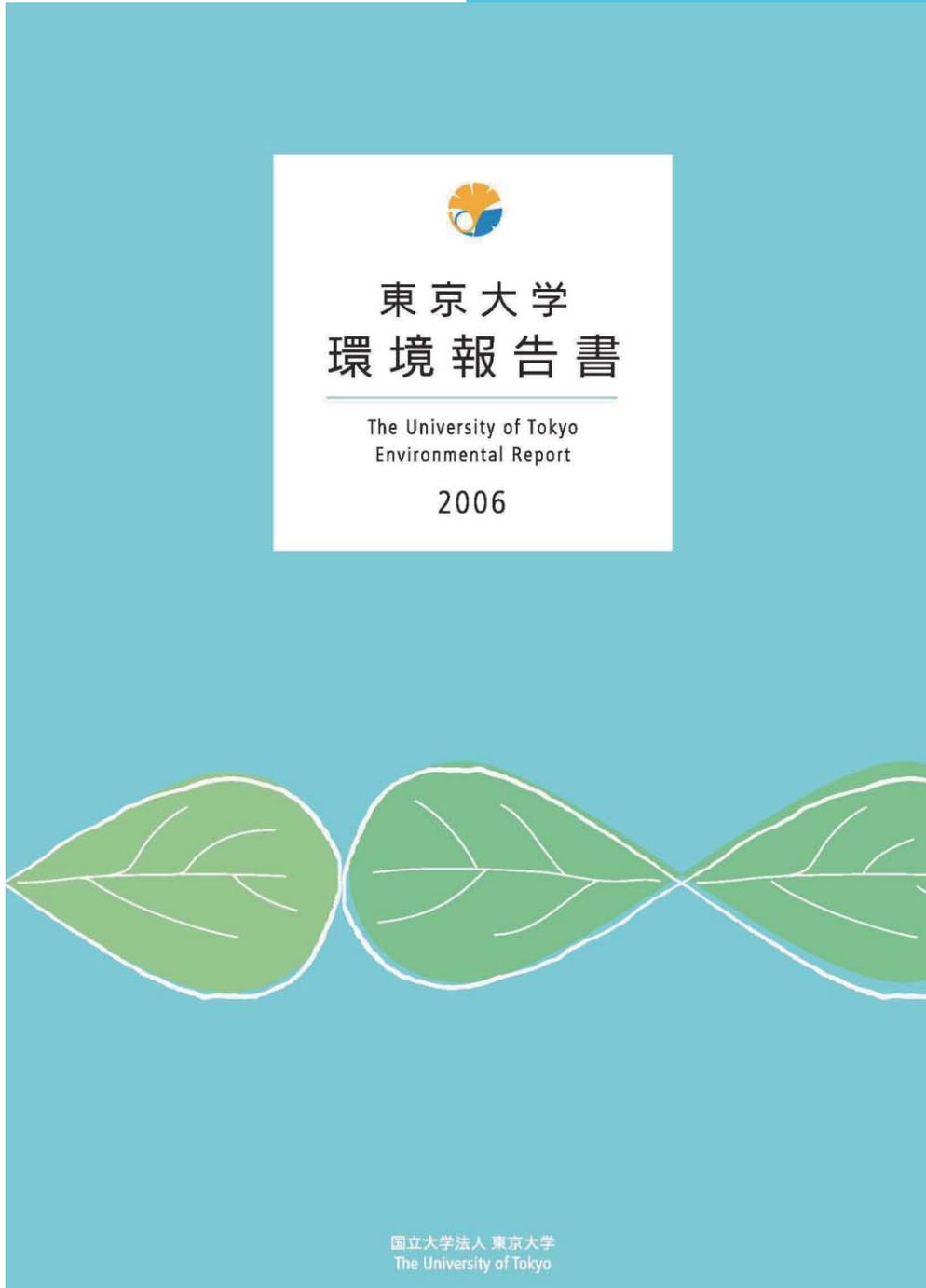


学内広報

for communication across the UT



特集：

東京大学環境報告書2006

2006.10.11

No. 1344

このたび、環境安全本部により東京大学環境報告書が作成されました。この報告書は、私達、本学教職員にとって大変、関係の深いものです。そこで、今回の特集では、その内容をご紹介します。

環境報告書とは？

環境報告書とは、企業等の事業者が、経営責任者の環境保全に対する決意、環境保全に関する方針・目標・計画、環境マネジメントシステムの運用状況、法規制遵守、環境保全技術開発や、環境負荷の低減に向けた取組みの状況（CO₂排出量の削減、廃棄物の排出抑制等）について取りまとめ、組織内外に公表する報告書です。

環境報告書の作成・公表により、事業者と利害関係者（ステークホルダー。大学の場合は教職員や学生、地域社会、行政機関、産業界等）による環境コミュニケーションが促進され、事業者の環境保全に向けた取組みの自主的改善とともに、社会からの信頼を勝ち得ていくことに大いに役立つと考えられています。

東京大学週間電気予報 (7月)

| 日 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 天気 | 晴 | 晴 | 晴 | 晴 | 晴 | 晴 | 晴 |
| 最高気温 | 28.0 | 27.5 | 28.5 | 28.0 | 28.5 | 29.0 | 28.5 |
| 最低気温 | 20.0 | 19.5 | 20.5 | 20.0 | 20.5 | 21.0 | 20.5 |

先週の実績

| 日 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 最高気温 | 28.0 | 27.5 | 28.5 | 28.0 | 28.5 | 29.0 | 28.5 |
| 最低気温 | 20.0 | 19.5 | 20.5 | 20.0 | 20.5 | 21.0 | 20.5 |

省エネルギーへの対策事例
(週間電気予報)



化学薬品の適正管理
(薬品保管庫の例)



作業環境測定
(排水のサンプリング)

東京大学環境報告書2006について

本報告書は初年度ということもあり、まず東京大学が環境マネジメントや環境負荷の低減に向けた取組みに関してどのようなデータがあるのか、また、教育・研究活動の中で、環境に関わるどのような活動を行っているかを把握し、公表することを目的として作成しました。

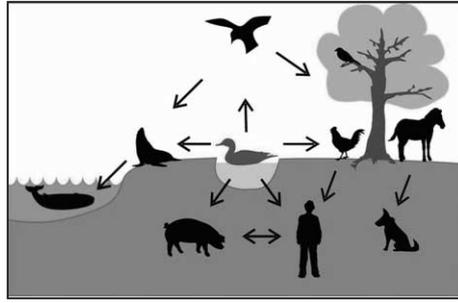
さらに、本報告書では、「環境配慮に係る研究の紹介」で具体的な研究内容を紹介し、「その他の活動について」では研究以外の活動を取り上げることで、読者の方々に東京大学の様々な面や活動を知って頂けるよう構成しました。また、報告書という言葉からは堅いイメージを受けるかもしれませんが、この報告書では、読者を大学の主要なサービスである教育をこれから受ける高校生を対象とし、図や写真等を盛り込むことで、理解を得ることを目指しています。

作成業務を通して改めて感じたのは、東京大学の規模の大きさです。北は北海道の富良野や常呂から南は奄美大島まで日本各地に施設が分布しており、敷地は約326百万㎡を保有し、学生を含めた構成員は4万人を超えています。このように、東京大学が行う環境保全活動が日本の環境に与える影響は決して小さくありません。また、各キャンパス等での環境教育・研究の成果が地球環境問題改善に貢献することが期待されます。本報告書を通して東京大学の構成員一人ひとりが環境問題に対する意識をより一層高めることを期待しています。

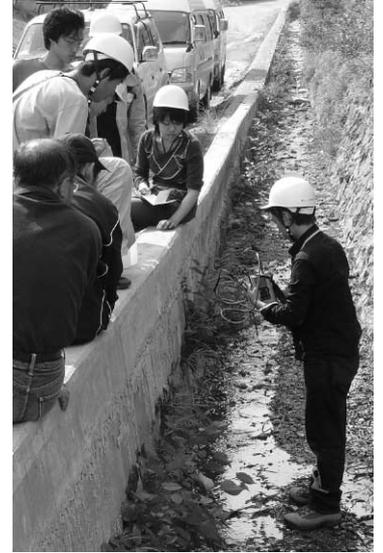
URL:http://www.u-tokyo.ac.jp/fac06/public05_j.html

小宮山総長の緒言骨子

現代社会の様々な問題を解決するには「知の爆発への対応」及び「知識の構造化」が必要であり、これがサステナビリティの確保につながる。



鳥インフルエンザウィルスの感染経路



教育活動(フィールド講義)

東京大学 環境報告書

The University of Tokyo
Environmental Report
2006



国立大学法人 東京大学
The University of Tokyo



職員による活動(三四郎池環境整備)



学生による活動(環境三四郎)

第三者意見骨子



柳下正治

上智大学大学院地球環境学研究科教授

東京大学の環境報告書を読んだ意見、および、東大に対する課題は下記の通りである。

- 1) 環境負荷発生要因の解析と環境改善の取り組み推進については一定の評価を与える。
- 2) 環境教育と研究者の人材育成が必要。
- 3) 研究の推進と成果の社会への還元に期待。
- 4) 地域社会との連携が重要。

アンケートのお願い

大学の環境報告書は企業の環境報告書を参考にするだけでなく、教育・研究機関である大学としての特色ある環境報告書の作成を目指する必要があります。未熟な部分を把握し、改善することにより、次年度以降の環境報告書をより一層充実させるため、創意工夫に努めて参ります。本報告書にはアンケートを用意しております。今後の環境報告書の充実のため活用いたしますので、是非皆様の率直なご意見・ご感想をご記入して頂きたく、お願いいたします。

【問い合わせ先】

環境安全本部 Tel: 内線21577 Fax: 内線21053
Mail: utreport@adm.u-tokyo.ac.jp



バリアフリーへの取り組み
(環境整備スタッフの活動)

東京大学公開講座「ロボット新世紀」開催中！

今回、105回目を迎える伝統ある東京大学公開講座ですが、今回は例年と趣向を変えて開催しています。

例年ですと、1日につき講義80分×2コマというプログラムで開催していましたが、今回は講義35分～40分×4～5コマというスタイルに変更しました。1コマの時間が短くなりましたが、22名もの先生が結集し、身近になったロボットに関する学問の世界を多様な視点から紹介します。

この号配布時点では、第1日～第3日までの講義が終了していますが、1日のみの参加や当日参加もちろん可能です。皆様のご来場をお待ちしております。



会場：大講堂 [安田講堂]
 対象：成人一般・大学生・高校生
 受講料：1日 1,000円
 ※高校生は半額
 ※東京大学の学生は無料、教職員は半額

※詳しくはホームページをご覧ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/d04_01_j.html
 (東京大学ホームページ→社会人・一般の方へ→公開講座)

初日には600名近くの方々にご来場いただきました



講義日程

第1日 9月30日(土) ロボットのあゆみ

| | | |
|-------------|-------------------------------------|----------------------|
| 13:30～13:40 | 開講の挨拶 | 武市 正人 (情報理工学系研究科長) |
| 13:40～14:20 | ロボットの歴史 | 佐藤 知正 (情報理工学系研究科・教授) |
| 14:25～15:05 | ロボットとSF —文学的想像力は科学に先行する— | 沼野 充義 (人文社会系研究科・教授) |
| 15:25～16:05 | フォードシステムの再検討から 日本の自動車産業を考える | 和田 一夫 (経済学系研究科・教授) |
| 16:10～16:50 | 自律分散ロボットシステム —RoboCupから生産システムまで— | 新井 民夫 (工学系研究科・教授) |

第2日 10月7日(土) ロボットと社会

| | | |
|-------------|---|---------------------------------------|
| 13:30～14:10 | ロボットは人間にとって何なのか？ —敵か味方か、鏡か窓か— | 佐倉 統 (情報学環・助教授) |
| 14:15～14:55 | 飛行ロボットで災害や 自然環境を空中観測 | 鈴木 真二 (工学系研究科・教授) |
| 15:15～15:55 | 手術ロボットの現状と将来 | 光石 衛 (工学系研究科・教授) |
| 16:10～16:50 | パネルディスカッション「ロボットと社会」 ディスカッションコメント パネリスト | 松本三和夫 (人文社会系研究科・教授) 佐倉 統・鈴木真二・光石 衛 |

第3日 10月14日(土) ロボットと知

| | | |
|-------------|-------------------------|-------------------------|
| 13:30～14:05 | 赤ちゃんはロボットを どう認知するか？ | 関 一夫 (情報学環/総合文化研究科・助教授) |
| 14:10～14:45 | 人間に近づくロボット | 國吉 康夫 (情報理工学系研究科・教授) |
| 15:05～15:40 | 脳と身体の動的発達とロボット | 多賀巖太郎 (教育学系研究科・助教授) |
| 15:45～16:20 | ロボットとアフオーダンス | 佐々木正人 (情報学環・教授) |
| 16:30～17:05 | 最先端半導体技術で ロボットの右脳を創る | 柴田 直 (新領域創成科学研究科・教授) |

第4日 10月21日(土) ロボット解剖学

| | | |
|-------------|--------------------------------------|----------------------|
| 13:30～14:10 | 人のからだ、ロボットの身体 | 中村 仁彦 (情報理工学系研究科・教授) |
| 14:15～14:55 | ヒューマノイドロボット | 稲葉 雅幸 (情報理工学系研究科・教授) |
| 15:15～15:55 | より速く、より柔軟に —ビジョンチップが拓く超高速ロボットの世界— | 石川 正俊 (情報理工学系研究科・教授) |
| 16:00～16:40 | コンピュータ統合 手術支援システム | 佐久間一郎 (工学系研究科・教授) |

第5日 10月28日(土) ロボット未来学

| | | |
|-------------|---------------------|-----------------------|
| 13:30～14:05 | インタフェースとしてのロボット | 廣瀬 通孝 (情報理工学系研究科・教授) |
| 14:10～14:45 | ロボットと芸術 | 池内 克史 (情報学環・教授) |
| 15:05～15:40 | 未知の海中に潜る 自律型ロボット | 浦 環 (生産技術研究所・教授) |
| 15:45～16:20 | ロボットと農林業 | 芋生 憲司 (農学生命科学研究科・助教授) |
| 16:30～17:05 | ロボット新世紀 | 下山 勲 (情報理工学系研究科・教授) |
| 17:05～17:15 | 開講の挨拶 | 小宮山 宏 (東京大学総長) |

※やむを得ない事情によりプログラムを変更する場合があります。ご了承下さい。

NEWS

キャンパス ニュース



学生部

本年度第1回「東京大学総長賞」の
受賞者決定

学生表彰選考委員会（委員長 神野直彦経済学研究科教授）では、今年度第1回表彰の実施に向けて、本学各方面から推薦された合計14件の候補者を慎重に選考審査し、以下の個人2名及び2団体を選出しました。

授与式は下記の日時に実施されますが、授与式では、受賞者への表彰状及び記念品の授与、総長の挨拶、各受賞者（個人・団体）からのプレゼンテーションが行われます。また、授与式の後、引き続き懇談会を予定しています。

なお、授与式は、多数の学生による祝福の場としたく、奮ってのご参加をお待ちしています。

記

受賞者

【個人の部】

國枝 明弘さん（経済学部4年）

第3回全日本学生落語選手権（策伝大賞大会）での優勝及び落語ボランティア活動による貢献

馬場 幸栄さん（人文社会系研究科修士課程2年）

日本におけるアーカイブズ教育の普及促進運動

【団体の部】

東京大学運動会ボディビル&ウェイトリフティング部

関東学生選手権団体優勝、全日本学生選手権個人優勝など

東京大学法律相談所

継続的な無料法律相談の開設と多年にわたる五月祭における模擬裁判の上演

授与式

日時 11月7日（火）

・授与式 17:00～18:00

・懇談会 18:00～19:30

場所

大学院数理科学研究科大講義室（駒場キャンパス）

【本件に関するお問い合わせ】

担当：学生部学生課学生生活チーム（大八木・宮内）

内線：22529/22514

e-mail：gakuseiseikatsu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



昨年の受賞者プレゼンテーションの様子

平成18年度の学内広報発行スケジュール

| 号数 | 原稿締切日 | 発行日 | 配布日 |
|------|-----------------|-----------|-----------|
| 1345 | 10月18日（水） | 10月25日（水） | 10月31日（火） |
| 1346 | 10月31日（火） | 11月8日（水） | 11月14日（火） |
| 1347 | 11月15日（水） | 11月22日（水） | 11月29日（水） |
| 1348 | 学生生活実態調査特集号（予定） | | |
| 1349 | 12月6日（水） | 12月13日（水） | 12月19日（火） |
| 1350 | 1月10日（水） | 1月17日（水） | 1月23日（火） |
| 1351 | 1月24日（水） | 1月31日（水） | 2月6日（火） |
| 1352 | 2月7日（水） | 2月14日（水） | 2月21日（水） |
| 1353 | 2月21日（水） | 2月28日（水） | 3月6日（火） |
| 1354 | 3月7日（水） | 3月14日（水） | 3月20日（火） |

部局 ニュース

先端科学技術研究センター

先端科学技術研究センター自衛消防隊、自衛消防活動審査会にて最優秀賞受賞！

自衛消防隊の実践的な活動能力の向上を推進することを目的とした、目黒消防署主催による自衛消防活動審査会が、毎年ダイエー碑文谷店にて行われております。今年の自衛消防活動審査会は、雨降り止まぬ9月13日に行われました。

Aの部（火災予防条例により防災センターまたは自衛消防隊の設置義務事業所）16隊、Bの部（Aの部以外の事業所）10隊、女子隊の部5隊が参加しました。大規模災害による火災発生を想定し、現場確認から119番通報、消火器による初期消火、屋内消火栓による消火までを3人1隊で行い①チームワーク、②迅速な行動、③確実な操作、④安全管理、及びタイム計測による採点が行われ、厳しい環境の中、日頃の訓練の成果を競い合いました。

今年の先端科学技術研究センター自衛消防隊は、藤木礼さん（町田研究室・工学系研究科航空宇宙工学専攻修士2年）、武内 靖幸さん（町田研究室・工学系研究科航空宇宙工学専攻修士1年）、浅木 真也さん（宮山研究室・工学系研究科応用化学専攻修士1年）の3人で結成し、猛暑の8月下旬から自衛消防訓練を日々重ね厳しい練習の末、当日の審査会においては緊張感の中にも全ての訓練を成し遂げ、自信に満ち溢れていた先端科学技術研究センター自衛消防隊の結果は最優秀賞という輝かしいものとなりました。



最優秀賞に輝いた隊員の皆さん

昨年度は駒場Ⅱキャンパス自衛消防隊で最優秀賞受賞、今年度は先端科学技術研究センター自衛消防隊として最優秀賞を受賞し、悲願の2連覇を達成しました。



<隊員紹介>前列左より、武内隊員、藤木隊長、浅木隊員
後列左より 大保施設安全係員、井上事務長、橋本所長、
青木施設安全係長

駒場Ⅱリサーチキャンパスでは、防災センターと施設安全係を中心に万一の災害時に適切に対処すべく訓練を重ねておりますが、同時に重要なのは教職員の皆様が日頃から火災発生を未然に防止する様努めていただくことであります。

<参考>

自衛消防訓練とは、事業所において火災・地震その他の災害による人的又は物的な被害を最小限に止めるための措置を、迅速かつ適切に行えるようにするために行う訓練のことです。



自衛消防訓練の様子

9月15日（金）～17（日）まで、第47回銀杏祭が行われた。今年のテーマは「東身大」で、ありのままの東附の身の大きさ、東附ならではの姿を来校者に感じていただくという意味である。3,000名近い来校者で賑わった。

初日は練馬文化センターで「開会式」が行われ、13の団体がステージを盛り上げた。東京高校OBと在校生有志による恒例の「東高音頭」、3、4年生の課題別学習「英語でミュージカル」「民俗芸能」、和太鼓の「華撃」など、生徒たちは全身でそれぞれのパフォーマンスを披露していた。

また、土日におこなった学校説明会には、例年を上回る450世帯の保護者、児童が参加した。

最終日の夕方には後夜祭が行われ、来校者と生徒たちによる投票で決まるグランプリの発表が一番盛り上がった。開会式部門と総合グランプリを管弦楽部が受賞した。

また、衛藤隆学校長による校長賞を、2年総合学習（60回生）が受賞した。発表も良く、地道に足で稼いだデータをしっかりとまとめたことが評価された。



グランプリ受賞の管弦楽部

おわりに、銀杏祭実行委員長の星野智哉君が、幹部や生徒みんなで協力してできたことに対する感謝の言葉を述べて、3日間の文化祭を終えた。



校長賞を受賞した2年総合学習での発表の様子

史料編纂所は、9月25日（月）16時30分から総合図書館大会議室で、前近代日本史情報国際センター設立記念式典を挙行了た。

式典は、保立史料編纂所長の挨拶、石川特任教授の同センター事業紹介に始まり、佐藤慎一副学長からの式辞、次いで森見憲文部科学省学術機関課長及び高恵玲大韓民国国史編纂委員会編史部長から来賓祝辞をいただいた。また、石井紫郎日本学術振興会システム研究センター副所長による記念講演が行われた。講演は、ご自身と史料編纂所との長い関係、そして先導されてきた国制史研究における概念史の方法と「知識（ナレッジ）ベース」という本センター事業の関わりにまで及んだ。

式典閉式後、会場を史料編纂所大会議室に移し、祝賀会を開催した。祝賀会には約90名が参加し、坂内正夫国立情報学研究所長及び金文京京都大学人文科学研究所長から祝辞をいただいた後、岡村定矩副学長による乾杯の発声をいただき、終始和やかな雰囲気にもまれて、盛会裡に閉会した。



石井紫郎先生による記念講演

ワタシのオシゴト 第1回

Rings around the UT

文学部・人文社会系研究科
事務部教務係

青山 幸子さん

あまりにも突然始まりました新連載コラム「ワタシのオシゴト」。毎回、ひとりの教職員が自分の仕事について書きつづるリレーエッセイです。次々につながっていく教職員の『輪』！（古いですね）あなたのところに到達するのはいつの日か……。栄えある第1回は文学部の人気者、青山さんです！

文学部の教務係で働いている青山幸子です。学部学生の成績管理、教室の貸出事務、学生証の再発行、奨学金や授業料免除に関することなどをメインに、オープンキャンパスなどでも裏方であくせくやっています。

異動して3ヶ月しかたつてない私にとって文学部はまだ未知の世界。当初は専修課程の略称を覚えるのも一苦勞。未だに研究室や教室の場所なんてまるで迷路のよう。方向音痴なので迷ったら出てこられるかどうか…。独特の用語も頭を悩ませてしまいます。



出身地：埼玉県 血液型：O型
自分の性格：良くも悪くもマイペース

でも先生方や学生をはじめ、いろいろな人と関わることができるのは最大の魅力。職場の人たちもステキな人たちばかり。様々な人との関わりを通じて、少しずつでも成長できたらと思う今日この頃です。



文学部教務係のみなさん

次回執筆者のご指名：安藤洋平さん

関係：戦友

一言紹介：熱いハートで何事にも立ち向かって行く顔文字の達人です☆

IR3S / Integrated Research System for Sustainability Science
サステナビリティ学連携研究機構

さすてなTimes vol.3

TIGS-AGSセミナーへのお誘い

住 明正
TIGS総括ディレクター/
AGS推進室長

サステナビリティ学連携研究機構の中核として、東京大学では、地球持続戦略研究イニシアティブ（TIGS）というものを立ち上げた。これは、今まで東大がMIT、ETH、Chalmersなどの大学とやってきたAGSの発展系と考えてもらえばよい。東京大学の各部分を持っている知識を、21世紀の地球の、人類の生き残りのために総動員しようというのが骨子である。

それでは、具体的に何をするのであろうか？ 公式的な答えは、「モード2型のサイエンスを行う」ということである。現実に存在する具体的な課題に対して、必要な知識を総動員して具体的な対応策を提示していく、ということである。このためには、さまざまな知識を用いざるを得ず、必然的に学融合型にならざるを得ない。しかしながら、「文理融合」とか、「学の統合化」とか言われてから久しい。しかし、「具体的にどんな成果があったのか？」と懐疑的になる人も多いことであろう。

TIGSでは、意図的に、知識の統合化、総合化に取り組むことを考えている。昔の左翼では、物事を組織するための議論は、組織論とよばれ、数多くの観念的な議論がされてきた。しかし、その中でも唯一正しように思われるのは、「何万の人よりも、1人のレーニン」という言葉である。つまり、組織化するためには、烏合の衆を集めることよりも、1人の有能な、情熱をもったリーダーを見つけることが大事だということである。

サステナビリティ学の樹立や展開のためには、数多くの組織・人の協力が必要となる。このような組織や人の協力を実現してゆくのも、結局、人間と人間のコミュニケーションを通してである。このような知的コミュニケーションができるリーダーを見出してゆく仕掛けこそが不可欠となる。

笑い話であるが、政府の審議会などで東大の他学部の先生と知り合いになる。どうして、学内で知り合いになり、話ができないのだろうか？ そのような問題意識に基づき、毎月、いろいろなテーマで話をしてもらい、その後は、そのテーマを肴にワインを楽しむ、というような機会を、TIGS-AGSセミナーとして始めることにした。

大学とは、本来、知の拠点のはずである。そして、その拠点には、未知のものへの好奇心と挑戦する勇気があふれているはずのものである。このような雰囲気をかもし出すためにも、ぜひ、TIGS-AGSセミナーに参加していただきたいものである。



第16回 UT購買サイトの利用促進に向けて — 直近の改善策 —

調達本部が昨年10月に重点12分野に関する構想を科所長会議に報告してから、早いもので1年が経過しました。この1年にほぼ各分野ごとの対策方針が固まりましたが、目標とする10億円の調達改善効果の半分以上は、文具・事務用品、OAパソコン等を扱うUT購買サイトの利用にかかっています。

UT購買サイトがスタートしてから4ヶ月が経過しましたが、まだまだ利用は本格的なものとはいえません。利用促進をお願いするばかりなのですが、先日この欄で予告した調達本部としての改善策がある程度具体化してきましたので再度お知らせします。①会計情報コードの登録と、②検索の充実についてです。

まず、①の会計情報コードの登録は、将来にわたる事務処理の効率化の観点から、発注者に関する、所属、予算科目、プロジェクト、勘定科目についてあらかじめシステムに登録してもらうものです。

法人化後に登場した勘定科目が依然としてなじみが薄かったせいか、大変難しい作業のように受け取られ、ここより前に進むことを断念してしまわれた方もあったようです。そこで、この部分については勘定科目にも慣れ、また各ユーザーの会計情報を知る立場にある事務の方に協力して頂くこととしました。

発注者の希望があれば、事務の方が必要な登録情報を選びだしてお知らせし、発注者はその内容をそのまま入力すれば済むかたちになりますので、この部分の障害は取り除かれるものと思います。

また、②検索の充実は、当初の検索条件が限定的すぎたきらいがあり、なかなか買いたい商品にたどりつけないとの苦情に対応するものです。カタカナで検索するか、英文字で検索するかといった選択、文字を全角で入れるか、半角で入れるかといった制限をとりはらい、いわゆる「あいまい検索」を可能にします。また、商品名についてもシステムが受け入れる関連語句の種類を広げます。

ただ、この「あいまい検索」の度合いを広げることは、それなりにお金のかかることです。少なくとも購入目的商品は明確な中で使用される公費専用サイトの性格上、一般のショッピングサイトほど幅広くはならない、とご了解いただきたいと思います。

二つの改善は、10月中に実施される予定です。もちろんUT購買サイトの利用に当たっては他にもいろいろ疑問がわいてくるものと思いますが、そこでご利用をあきらめることなく、ぜひヘルプデスクにご相談下さるようお願いいたします。

調達本部連絡先 ☎22148 櫻井

コミュニケーションセンターだより No.23

■ 10月より展示スペースリニューアル！！

10月6日より、コミュニケーションセンターの展示スペースの展示物が変わりました！！

今回の展示は、「アミノ酸研究」と「ロボット研究」の2テーマで展示を行っております。少しでも研究成果を身近に感じて頂ければ幸いです。是非、お立ち寄り下さいませ。

■ 「アミノ酸研究」展示について



●シアター型展示スタイル

今回、初試みとして映像を座ってご覧頂きたくイスをご用意しました。お時間を気にすることなくご覧頂ければと思います。

(映像：TBS「夢の扉」8月6日放送)



●大谷先生サイン会開催

「アミノ酸」の研究者でいらっしゃる大谷先生のサイン会を月1回開催いたしております。皆さんと先生が直接触れ合える機会なので是非お越し下さいませ。

次回予定：11月11日
11:00～12:00

アミノ酸について質問し、熱心に先生からお話を聞いていらっしゃいました。

■ 「ロボット研究」展示について

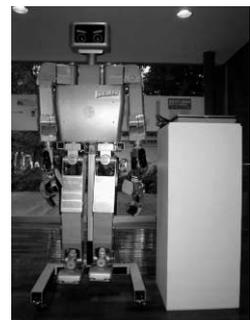
●身長約140cmヒューマノイド

ロボット展示
触って頂けるようカバーなどについておりません。是非この迫力をご体感下さいませ。



●「IRTプロジェクト」の説明

東京大学と産業界が連携して動き出した「IRTプロジェクト」の解説パネルがございます。プロジェクトの取り組みをご理解頂ければと思っております。



10月28日(土)まで公開講座「ロボット新世紀」が毎週土曜日開催されています。是非ご参加下さいませ。

(担当：コミュニケーションセンター 辻)



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30

電話：03-5841-1039

http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp

自動車部

駒場の図書館裏にある同窓会館前に自動車がたくさん停まっているのを見たことがある方も多いかと思います。この同窓会館前にあるのが、私たち自動車部のガレージです。自動車部とは一言でいえば、モータースポーツをする運動部です。自動車部の活動は主に自動車競技会への参加及び主催となっています。

競技会への参加としましては基本的に関東エリアで開かれるものに参加しています。

自動車競技にもいろいろな種類（ジムカーナ、ダートトライアル、ラリー等）があり、部員各人が自分の興味のある競技を楽しんでいます。また毎年開催される七大戦にも参加しています。部全体が一致団結し、優勝めざして戦い抜いております。



競技会への参加だけではなくその主催も年に約3回行っております。協賛企業を集めることから始め、様々な大会準備を行い、なるべく多くの参加者に喜んで頂ける競技会を運営できるように努力します。大会主催を成し遂げた後の充実感は、言葉では言い尽くせないほどのものです。この他、練習場での終日練習や合宿を行い、部員の結束を高めるとともに技術向上に努めております。



どうしても自動車部というとマニアックな印象を受けるかもしれませんが、私たちの部は非常に和気藹々としているのが最大のアピールポイントだと思っております！

（自動車部 島津 洋介）

★★DATA★★

創立：昭和10(1935)年頃
 部員数：15名
 練習場所・練習日：毎週土曜日15時から駒場自動車部ガレージにてミーティング
 年間予定：4月 新歓ダートトライアル主催
 6月 神奈川ダートトライアルシリーズ第4戦主催
 8月 七大戦
 11月 東大ダートトライアル主催
 4月～11月 神奈川ダートトライアルシリーズ
 活動実績：05年神奈川ダートトライアルシリーズ B2クラス5位 NAATクラス4位 MSCCラリー Cクラス1位
 部長：宮田 秀明（大学院工学系研究科教授）
 HP：http://utac.s13.xrea.com/

柔道部

中学や高校の体育の授業で柔道をやったことのある人は、柔道の創始者嘉納治五郎先生の名前を耳にしたことがあるかと思いますが。その嘉納先生は、実は本学の卒業生であり、私たち柔道部員はそのような稀有な環境の下で自らを鍛えるために日々厳しい稽古に励んでいます。また、部内の雰囲気もよく、稽古が終わったあとでも部員同士で技術の向上の為に技の研究に励んだり、稽古に来て下さる先輩方などに質問したりと、部員一丸となって頑張っています。

柔道部は年間を通して大小さまざまな大会に参加しますが、その中に6月中旬に行われる七大戦があります。これは女子が3人の点取り、男子は15人の勝ち抜きによる団体戦です。そのため、部員の半分以上が試合に出ることになり、その大学の部としての総合力が試されます。



試合は一本のみでしか勝敗を決しないため、非常に緊張感のある試合となり、その盛り上がりは他の試合では味わえない凄まじいものとなります。この大会で勝つことを目標にして頑張っている部員も多く、15人のメンバーに入るためにお互いにしのぎを削っています。



このように書くと経験者ばかりと思われるかもしれませんが、大学から始めた者も多く、その全員が在学中に黒帯を手に入れ、中には経験者よりも強くなる人もいます。少しでも興味を持たれたら気軽に見学や練習に来て下さい。

（柔道部 衛門 久樹）

★★DATA★★

創立：明治40(1907)年頃
 部員数：29名
 練習場所・練習日：月、水 七徳堂
 火、木～土 駒場第一体育館柔道場
 年間予定：5月 東京学生団体大会
 6月 国公立大会、七大戦
 7月 全国国立大会
 9月 東京学生個人大会
 10月 東京学生2部大会
 11月 一橋大定期戦
 12月 防衛大定期戦
 活動実績：国公立大会団体戦ジュニア優勝・オール準優勝、個人戦男子66kg級優勝・81kg級準優勝・無差別級優勝、女子52kg級優勝・52kg超級準優勝
 七大戦男子準優勝、女子優勝
 部長：落合 誠一(大学院法学系研究科教授)
 監督：楠 和久(柔道部OB)
 HP：http://akamonjudo.at.infoseek.co.jp/

東京大学TLOからのお知らせ

東京大学TLOの業務について ~発明届の提出からライセンスされるまで~

東京大学TLO (CASTI) は産学連携プラザの3階に入居しています。2004年4月の国立大学法人化以降、私たち東京大学TLOは産学連携本部と一体となり、本学の研究者の皆さまの研究成果を産業界にご紹介する活動(技術移転活動)を行っております。

私たち東京大学TLOは本学の知的財産全般に関するエージェントです。特許に関すること、研究試料のMTAのこと、著作物、コンサルティング等々、何でもお気軽にご相談ください。

今回は、研究者の皆さまが発明届を出されてからの一連の流れを簡単に説明させていただきます。皆さまが東京大学TLOをご活用いただく際の参考になれば幸いです。

STEP 1: 研究者が発明を行う。

→発明届を部局に提出。



STEP 2: 発明届が部局経由で産学連携本部知的財産部に。
→即日、知的財産部より東京大学TLOに発明届を開示。

STEP 3: 東京大学TLOのアソシエイトが発明届の連絡先に電話もしくはメールでご連絡。→アソシエイトが研究室を訪問し、届出の発明内容についてヒアリング。

STEP 4: ヒアリング結果と、市場性、特許性等の調査結果をもとに東京大学TLOより知的財産部へ報告。→知的財産部の承継判定を受け、東京大学TLOにて出願手続き。

STEP 5: 研究者とアソシエイトで特許明細書のチェック。

(明細書は原則、東京大学TLOで選定した弁理士が作成)

STEP 6: 東京大学TLOにおいてマーケティング・ライセンス活動(研究者からの情報・意見を参考にしつつ、発明の実用化を第一の目的として、ライセンス候補企業に1社1社技術紹介を行います)

STEP 7: ライセンス対価(ロイヤリティ)が発生した場合は、学内ルールに則り産学連携本部より配分。

<よくいただくQ & A>

Q: 発明届を書こうと思うけれど、様式はどこにあるの?

A: 産学連携本部HPの「規則・様式」の中にあります。

<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/regulation.html>

Q: 発明届はどこに提出するの?

A: ご所属の部局(知的財産室)に提出してください。部局ごとの連絡先一覧も上記HPの中にあります。

Q: 研究のどの段階で発明届を出せばいいの?

A: 研究の完成度が高いほど、特許の精度も高くなりますが、その一方で、研究の途中成果を学会等で発表するご予定もあると思います。発表により特許出願のチャンスを失うこともあります。迷われた場合は、お気軽に東京大学TLOにご相談ください。

特許・MTA・著作物・・・知的財産に関するご質問は東京大学TLO(CASTI)まで。お気軽にお電話・メールをお待ちしております!

電話: 03-5805-7661

E-mail: casti@casti.co.jp



イベント報告とお知らせ

◇ お知らせ ◇

◇常時発表者募集・随時開催

「UCRシーズ実用化提案会」

「UCRプロジェクト提案会」

産業界と共同研究をご希望の方や、研究会立ち上げを御希望の方はご連絡ください。

◇産学連携セミナー(学内教職員・学生は参加費無料) テーマ:

「共同研究実施の留意点&発明者等への補償金支払」

・日時: 10月27日(金) 17:00~19:00

・会場: 産学連携プラザ2階会議室2(本郷キャンパス)

・講師: 中筋 亨(知的財産部知的財産統括主幹)

徳永威久(知的財産部知的財産統括主幹)

・申込方法: ①氏名②所属部局・役職③電話番号④開催月(10月)を記載の上、下記までe-mailで申し込みください。

seminar@ducr.u-tokyo.ac.jp

◇産学連携本部ホームページ更新しました!

Webからのお問い合わせをお気軽にどうぞ。

「学内からのお問い合わせ」

<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/faq/internals.html>

連絡先: 産学連携本部(研究協力部 産学連携課)

ホームページ: <http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

電話: 内線22857(外線03-5841-2857)

※「東京大学トップページ」上で「産学連携本部」をクリック



第5回

～広報センターより～



本郷界隈の道案内

2006年9月21日、広報センターは開設満11年になりました。当日までのご来館者数は50,571人。たくさんの方のご利用、本当にありがとうございます。

ところで、「〇〇駅はどっち？」など、単に道順を答えるだけの道案内は来館者の数には含めていません。しかし、その数は累計で13,287件です。学内にとどまらず近隣の史蹟旧跡を尋ねられることも多く、時には文京区のマップを広げて探したり、実際に行きつて確かめることもしばしばあります。そこで今回は「番外編」といたしまして、道案内件数の多い順に本郷界隈をご紹介します。

- 1位：旧岩崎邸庭園**＜素敵な洋館は、ジョサイア・コンドル設計。その銅像は本郷構内にあり！＞
- 2位：不忍池**＜明治の頃、池の外周には競馬場があったそうです。第1回目の開催は1884年11月とか。＞
- 3位：弥生美術館・竹久夢二美術館**＜弥生門を出たら、右斜め前にあります。すぐ前の通りは「暗闇坂」と名付けられています。＞
- 4位：湯島天神**＜落語『初天神』の噺の舞台にもなってますよー。ぜひ寄席でお楽しみあれ！＞
- 5位：無縁坂**＜森鷗外の『雁』か、さだまささんの♪「無縁坂」か、その知名度は世代でも分かれる。＞
- 6位：麟祥院**＜春日局のお墓は、広報センターの目と鼻の先なのです！＞

以下の順位は紙面の関係上ここまでですが、周辺には実に多くの名所がありますね。でも、本郷キャンパスも見どころがたっぷりですよ！散策を楽しんでみませんか！！

～小耳情報～

「学内広報」にGuide map掲載予定のうわさあり!?



↑無縁坂と岩崎邸の石垣

←蓮に覆われた不忍池
奥には東大病院



INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

大学院工学系研究科・工学部

第9回AMSシンポジウム

「Prospects for the New Frontiers of Earth and Environmental Sciences」開催のご案内

AMS（加速器質量分析）は、さまざまな領域における最先端の研究において、しばしば決定的な役割を果たしてきました。わが国でも、公的研究・教育機関や民間を含めて複数の施設において、AMSの測定や応用研究が活発に行われております。これまでも、多くの研究成果が生まれ、さらに新たな研究領域が創出されてきています。今回のAMSシンポジウムでは、これまでの成果を踏まえ、5つのトピックを選び、それぞれ海外より一流の研究者をお呼びして国際的な研究の現状を概観していただくとともに、わが国からも最先端の研究成果を発表していただき、重点的なディスカッションができるよう設計しています。

その他、ANUのK. Fifield教授より、「アクチノイドAMSの技術と応用」に関する特別講演を企画しています。UやPuのAMSはまだ国内で行ったことはありませんが、極めて関心の高い分野です。また、東大MALTが今年6月で、建設以来の加速器運転時間が累計50,000時間を越えたことを祝して、セッションの一つ設けさせていただきます。さらに、ポスターセッションを設け、多くの方の研究発表を期待しています。

本シンポジウムが、AMSを利用した応用研究が新たなフェイズに飛躍することの契機となることを祈念しています。多数の方々のご来場をお待ちしております。

【第9回AMSシンポジウム開催要項】

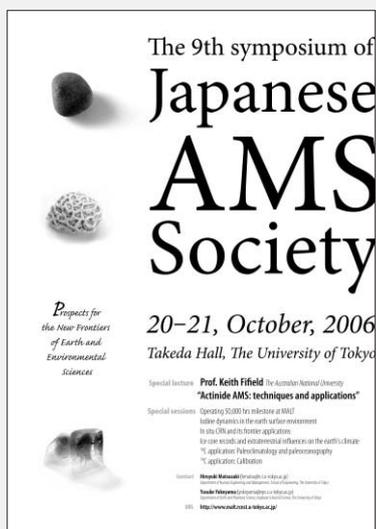
日時：10月20日（金）～10月21日（土）

会場：工学系研究科武田先端知ビル5階 武田ホール

URL：<http://www.malt.rcnst.u-tokyo.ac.jp>

日本語情報ページ：

<http://www.malt.rcnst.u-tokyo.ac.jp/generalinfoj.html>



スケジュール概要

10月20日（金）

—午前—

開会

Operating 50,000 hrs milestone at MALT

—午後—

Session 1: 14C application: Paleoclimatology and Paleooceanography

Session 2: 14C application: Calibration

ポスターセッション

懇親会（18：30～武田ホール横のホワイエにて）

10月21日（土）

—午前—

Session 3: Iodine dynamics in the earth surface environment

Special lecture: Actinide AMS: techniques and applications by Prof. K. Fifield (ANU)

—午後—

Session 4: In situ CRN and its frontier applications

Session 5: Ice core records and extraterrestrial influences on the earth's climate

閉会

MALTツアー

問い合わせ先

松崎浩之

大学院工学系研究科 原子力国際専攻

tel: 03-3-5841-2961（内線22961）

e-mail: hmatsu@n.t.u-tokyo.ac.jp

横山祐典

大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻

tel: 03-5841-4313（内線24313）

e-mail: yokoyama@eps.s.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

お知らせ

駒場博物館

特別展「一高校長 森卷吉とその時代—向陵の興廃この一遷にあり」

森卷吉（もりけんきち）は1929年から1937年までの間、第一高等学校（一高）校長を務めた教育家です。校長在任中の1935年に、当時本郷にあった一高と駒場にあった農学部との間で敷地の交換が行われました。この敷地交換は、職員・生徒など一高関係者全体の団結を示した出来事として、一高の歴史を語る際には外すことのできない位置を占めています。現在の東京大学教養学部は1949年、一高を前身のひとつとして発足し、一高の敷地や校舎を受け継ぎました。教養学部が一学部のみで駒場の広いキャンパスと濃い緑を享受することが許されている背景には、森を中心とした一高関係者が敷地交換のために払った努力があるといってもよいでしょう。

森はその62年の生涯のうち、35年間は高等学校に勤務し、またそのうち31年間は一高との関わりを持ち続けました。森の生涯は、旧制高等学校を中心とした戦前の日本の高等教育の歩みとともにあったということが出来ます。

本展は、森の残したノート、日記、書簡、写真などを通して、一高および戦前の日本の高等教育について理解と関心を深めていただくことを目的に、企画・制作されました。展示品の中には、森が東京帝国大学在学中に受けたラフカディオ・ハーン、夏目漱石の講義のノートも含まれています。

なお、本展の展示主要部分は、森卷吉のご遺族にご寄附いただいた遺品の数々によって構成されています。

会期：10月7日（土）～12月3日（日）

開館時間：10:00～18:00（入館は17:30まで）

休館日：毎週火曜日 入場料：無料

会場：大学院総合文化研究科・教養学部

駒場博物館 1階美術博物館展示室

住所：〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1
問合せ先：TEL 03-5454-6139 FAX 03-5454-4929
<http://tdgl.c.u-tokyo.ac.jp/~bihaku/>

主催：東京大学大学院総合文化研究科・教養学部
美術博物館
東京大学教養学部附属 教養教育開発機構
協力：森卷吉先生ご遺族の方々、一高同窓会、
駒場友の会



「一高校長 森卷吉とその時代」展ポスター

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第496（10月11日）号の発行 —教員による、学生のための学内新聞—

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

第496（10月11日）号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

兵頭俊夫：爆笑問題を迎えて
新入生と考える<教養>問題
大貫 隆：特別展「トラーの成立からユダヤ教へ」に
寄せて
三谷 博：高校生のための金曜特別講座
遠藤 貢：「人間の安全保障」プログラム
インテリジェント・ライブラリー開館
岡本拓司：オープンキャンパス2006
教養学部での実施について

大島利雄：数理科学研究科 オープンキャンパス2006
事務部長：事務組織の一部改組について

<本の棚>

松田良一：石浦章一著
『生命に仕組まれた「遺伝子」のいたずら
東京大学超人気講義録file2』

増田一夫：足立信彦著
『<悪しき>文化について
ヨーロッパとその他者』

<時に沿って>

森田敦郎：『文化人類学コース助手に就任して』

お知らせ

情報基盤センター

利用入門セミナー開催のお知らせ

このセミナーは、情報基盤センターが展開しているサービスについて分かりやすく紹介し、教職員、学生等の皆様に利用できるサービスを見つけて頂くためのものです。

教育用計算機、ネットワーク、図書館電子化などの話はもちろんのこと、特に今回は、全国共同利用のスーパーコンピュータの利用方法や、現在、研究プロジェクトとして進めているPKIに関する試行サービス等についての説明も予定しています。

東京大学にご所属であればどなたでも参加できます。

- 日時 10月25日（水）13：30～16：30
- 会場 総合図書館3階大会議

参加申込み及び当日のプログラム等詳細については、
<http://www.itc.u-tokyo.ac.jp/Seminar/>
をご覧ください。

より多くの皆様のご参加をお待ちしています。

（問い合わせ先）

情報基盤センターセミナー担当
seminar@itc.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

総合研究博物館

特別展示『東京大学コレクション —写真家上田義彦のマニエリスム博物誌』展のお知らせ

11月3日から平成19年1月28日まで、総合研究博物館では、特別展示『東京大学コレクション—写真家上田義彦のマニエリスム博物誌』展を開催します。

学内に蓄積されている歴史的な学術標本「東大コレクション」を、現代広告写真界の第一人者である上田義彦氏が撮影。本館では写真の展示会の開催は初めてのことになります。記念写真がつねに主観性を排除したメカニク的な眼差しに特徴があるのに対し、上田氏のカメラ眼には類稀な個性のフィルターがかかっており、そのため捉えられたビジョンは独特の奥行きと柔らかさに包まれ、作家性を強く主張しています。東京大学の由緒正しい学術標本を真正面から見据えたこの偏愛的博物誌は、「フォトアート&サイエンス」の協働作業の成果として、世界的に見ても例のないものと言えます。

また旧館では特別展示『「Systema naturae」-標本は語る-』展を、2F展示ルームでは『サンゴ礁の貝類—川口四郎博士コレクション』展を引き続き開催しています。

- 会期：11月3日（金・祝）～平成19年1月28日（日）
- 休館日：月曜日（祝日の場合は開館、翌日休館）
12月26日（火）～平成19年1月5日（金）
平成19年1月20日（土）～1月21日（日）
- 開館時間：10:00～17:00（入館は16:30まで）
- 会場：総合研究博物館 ●入場料：無料
- 問合せ：
ハローダイヤル 03-5777-8600
URL: <http://www.um.u-tokyo.ac.jp>

お知らせ

総務部

ホームカミングデイ開催迫る！

ホームカミングデイが、来る11月11日（土）に、本郷・駒場の両キャンパスで開催されます。

今回で5回目を迎える卒業生と大学との連携を図る催しは、各学部における講演会、懇親会、施設見学会といったイベントのほかにも、同窓会組織が運営する企画や、現役学生によるキャンパスツアーなど、盛り沢山の企画をご用意しています。また、安田講堂においては、坂村健情報学環教授、藤本隆宏経済学研究科教授、岡村定矩

理事・副学長による「スペシャルフォーラム」が行われ、今後東京大学が歩むべき道について語りあったのち、東京大学130周年記念事業開始宣言も盛り込んだ歓迎式典が予定されております。



昨年のホームカミングデイ歓迎式典

卒業生の方々はもちろんのこと、教職員、学生の方々におかれましても、ご家族・ご友人もお誘いあわせの上、ぜひお気軽にご来場ください。ホームカミングデイを通じて、旧友や恩師と再会したり、大きく変わりつつある「大学の今」を実感し、東京大学がみつめる未来を感じていただければ幸いです。



式典中の安田講堂内の様子

詳細なイベント情報や申込方法については、「ホームカミングデイプログラム」（10月上旬発行）または卒業生室ホームページ（www.alumni.u-tokyo.ac.jp）でご案内しております。同窓会の開催についても積極的にサポートいたしますので、お気軽にご相談ください。

なお、お問い合わせは総務部渉外グループ（03-5841-1217、内線21217）までお願いします。

お知らせ

情報基盤センター

“留学生向け情報探索ガイダンス”実施のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、レポート・論文作成や学習・研究に役立つ“情報探索ガイダンス”各種コースを実施しています。

11月は、中国語・韓国語・英語で行う「留学生向け情報探索ガイダンス」を開催します。

レポート・論文作成に役立つ、データベースを使った図書や雑誌論文の探し方を、パソコンを使いながら実習形式で行います。

留学生のみなさんご参加をお待ちしています。

●会場：

本郷キャンパス 総合図書館1階 講習会コーナー
<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/koshukai/map.index.html>

●日時：

中国語コース 11/14 (火) 15:00~16:00
韓国語コース 11/15 (水) 15:00~16:00
英語コース 11/21 (火) 15:00~16:00

●申込方法

各コース定員12名(先着順)です。
以下のサイトでお早めにお申し込みください。

(中国語)
<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/c/training-c.html>
(韓国語)
<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/k/training-k.html>
(英語)
<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/e/training-e.html>

●問い合わせ 学術情報リテラシー係 (22649)
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

地震研究所

公開講義・一般公開のお知らせ

地震研究所では、「知って、備える」をテーマに公開講義・一般公開を開催いたします。

近年、国内外で地震・火山による大きな災害が発生しています。また、建物の耐震性能についても社会的な関心が高まっています。地震・火山による被害を低減させ

るためには、正しい知識と日頃の備えが不可欠です。

例年より遅い時期の開催となっておりますが、この機会にぜひ足をお運びください。

■月日：11月24日(金)

■内容：

研究紹介展示

(場所：地震研究所1号館/文京区弥生1-1-1)
10:00~15:00、閲覧自由(申し込み不要)

公開講義

(場所：安田講堂/文京区本郷7-3-1)、
15:00~17:00、定員800名

- ①映画「日本沈没」に見る30年間の地球科学の進歩
(講師：山岡耕春 教授)
- ②建築構造物の耐震性能と耐震補強
(講師：壁谷澤 寿海 教授)

■参加費：いずれも無料

■申し込み方法：公開講義の受講を希望される方は、葉書またはE-mailに、全員分の住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号またはメールアドレス、会社(学校)名をご記入のうえ、下記申し込み先までお送りください。

■締切：11月10日

■申し込み・問い合わせ先：

東京大学地震研究所 アウトリーチ推進室
〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1
TEL：03-5841-5643(問い合わせのみ)
E-mail：openlec@eri.u-tokyo.ac.jp
(メールの件名は、申し込みの場合は「申し込み」、問い合わせの場合は「問い合わせ」としてください。)
<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/KOHO/PANKO2006/>

東京大学地震研究所
公開講義・一般公開
2006年11月24日(金)
知って、備える
公開講義1
映画「日本沈没」に見る30年間の地球科学の進歩
山岡 耕春 教授
公開講義2
建築構造物の耐震性能と耐震補強
壁谷澤 寿海 教授
研究紹介展示
地震研究所1号館 10:00~15:00(閲覧自由)
公開講義 安田講堂 15:00~17:00(定員800名)
申し込み・問い合わせ先：東京大学地震研究所 アウトリーチ推進室
〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1
TEL：03-5841-5643(問い合わせのみ)
E-mail：openlec@eri.u-tokyo.ac.jp
締切：11月10日

人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名(五十音)順

| 発令年月日 | 氏名 | 異動内容 | 旧（現）職等 |
|---------|------------------------------|-------------------------|------------------------|
| （退 職） | | | |
| 18.9.30 | 土屋 尚之 | 辞 職（筑波大学大学院人間総合科学研究科教授） | 大学院医学系研究科助教授 |
| 18.9.30 | 手崎 衆 | 辞 職（富山大学大学院理工学研究部教授） | 大学院工学系研究科助教授 |
| 18.9.30 | 廣田 照幸 | 辞 職 | 大学院教育学研究科教授 |
| （採 用） | | | |
| 18.10.1 | 唐澤かおり | 大学院人文社会系研究科助教授 | 名古屋大学大学院環境学研究科助教授 |
| 18.10.1 | 野口 航 | 大学院理学系研究科助教授 | 大阪大学大学院理学研究科助手 |
| 18.10.1 | 大手 信人 | 大学院農学生命科学研究科助教授 | 京都大学大学院農学研究科助教授 |
| 18.10.1 | WILSON BERNARD FRANCIS | 教養学部附属教養教育開発機構助教授 | |
| 18.10.1 | 川島 真 | 大学院総合文化研究科助教授 | 北海道大学大学院公共政策学連携研究部助教授 |
| 18.10.1 | 中野 公彦 | 生産技術研究所助教授 | 山口大学大学院医学系研究科助教授 |
| （昇 任） | | | |
| 18.10.1 | 渡部 泰明 | 大学院人文社会系研究科教授 | 大学院人文社会系研究科助教授 |
| （出向復帰） | | | |
| 18.9.13 | 北岡 伸一 | 大学院法学政治学研究科教授 | 外務省（国際連合日本政府代表部特命全権大使） |

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。



ご意見・ご感想投稿大募集！

UTカフェは読者コメントを掲載するコーナーです。「学内広報」に掲載された記事に関するご意見・ご感想をはじめ、学内の様々な事柄に関して常々思っていることなどを、気軽にお寄せください。

投稿はEメールで受け付けます。メールの本文に以下の項目を記入し、下記アドレスまでお送りください。メールの件名は「意見」としてください。誌面への掲載はペンネーム・匿名が可能です。連絡用として投稿の際には氏名・所属をご記入ください。

<投稿先メールアドレス>

kouhou-ex@adm.u-tokyo.ac.jp

<記入項目>

- ①氏名・所属 ②連絡先電話番号
- ③本名・匿名・ペンネームの希望
- ④タイトル（20字以内） ⑤本文（300字以内）

「東大川柳」も同時募集

「UTカフェ」では、東京大学をテーマにした「東大川柳」も同時募集します。優秀作は不定期で「UTカフェ」に掲載します。川柳の投稿の際には、メールの件名を「川柳」とし、④に川柳をご記入ください（⑤はなし）。

EVENT LIST

| 行事名 | 日時 | 場所 | 連絡先・HP等 |
|---|--|---|--|
| 高校生のための「工学体験ラボ」(T-Lab) 第2回「航空宇宙工学 ～ここからはじまる空と宇宙の最先端～」 | 10月21日(土) 13:00～ | 工学部11号館1階 工学部広報センター 「T-Lounge」、各研究室 | 工学部広報室 http://www.t.u-tokyo.ac.jp/public/info/archives/2006/0928.html E-Mail: t-Lab-info@t-adm.t.u-tokyo.ac.jp |
| 日米PURシンポジウムー市民に科学を伝えるにはー | 10月23日(月) 13:00～ | 生産技術研究所 コンベンションホールAn棟2階 | http://kdu.iis.u-tokyo.ac.jp/jst/ |
| 国立大学附置研究所・センター長会議 第三部会シンポジウム | 10月26日(木) 13:00～ | 理学部1号館 小柴ホール | 社会科学研究所 事務部・総務チーム 電話: 03-5841-4904 E-Mail: oct26sympo@iss.u-tokyo.ac.jp |
| 第108回オルガン演奏会 | 10月26日(木) 18:30～ | 教養学部900番教室(講堂) | 大学院総合文化研究科・教養学部オルガン委員会 http://organ.c.u-tokyo.ac.jp/ TEL: 03-5454-6139 (美術博物館) cmaeda@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp |
| 柏キャンパス一般公開 | 10月27日(金) 28日(土) 10:00～ | 柏キャンパス | 柏地区事務部渉外・広報室 http://www.kashiwa.u-tokyo.ac.jp/ TEL: 04-7136-3106 E-mail: opcam@icrr.u-tokyo.ac.jp |
| 社会科学研究所 人材ビジネス研究部門 成果報告会 | 10月31日(火) 13:30～ | 理学部1号館 小柴ホール | 社会科学研究所 http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/jinzai/061031.htm E-Mail: hrm@iss.u-tokyo.ac.jp |
| 18年度第1回「東京大学総長賞」授与式 ※5ページ参照 | 11月7日(火) 17:00～ 授与式 18:00～ 懇親会 | 数理学部研究科大講義室 (駒場キャンパス) | 学生部学生課学生生活チーム(大八木・宮内) 内線: 22529/22514 e-mail: gakuseiseikatsu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp |
| 生産技術研究所千葉実験所公開 | 11月10日(金) 10:00～ | 生産技術研究所 千葉実験所(JR総武線 西千葉 駅北口下車) | 生産技術研究所 千葉実験所 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/chiba/ |
| 東京大学COE国際シンポジウム Frontiers of the Biology of Uniqueness: Development, Sensory Responses and Reproduction | 11月11日(土) 9:30～ | 理学部2号館4階講堂 | 遺伝子実験施設 飯野雄一 http://www.biochem.s.u-tokyo.ac.jp/COE/ TEL 03-5841-3034 FAX 03-5841-3037 E-Mail: symposium@gen.s.u-tokyo.ac.jp |
| 第5回東京大学ホームカミングデー ※15ページ参照 | 11月11日(土) 10:30～ | 本郷キャンパス 駒場キャンパス | 総務部渉外グループ TEL:03-5841-1217 内線: 21217 FAX: 03-5841-1219 Email: hcd@adm.u-tokyo.ac.jp |
| 社会科学研究所国際ワークショップ 「世界における社会科学的日本研究の現状と展望」 | 11月17日(金) 18日(土) | 社会科学研究所大会議室/ 理学部1号館小柴ホール | 社会科学研究所 Tel 03-5841-4904 / Fax 03-5841-4905 Email fujiyama@iss.u-tokyo.ac.jp http://jww.iss.u-tokyo.ac.jp/ |
| 大学院数理学部研究科公開講座「対称性と群」 | 11月18日(土) 13:30～ | 数理学部研究科 大講義室 | http://faculty.ms.u-tokyo.ac.jp/users/kokaikoz/kokaikoz2006.html e-mail: t-saito@ms.u-tokyo.ac.jp |
| 第6回東洋文化研究所公開講座 「アジアを知れば世界が見えるーアジアの暦」 | 11月18日(土) 19日(日) 13:00～ | 経済学研究科棟 地下一階第一教室 | 東洋文化研究所研究協力係 TEL:03-5841-5836 E-Mail: koza@ioc.u-tokyo.ac.jp |
| International Symposium on Structural Reliability in Energy Systems Innovation ～信を極める～ | 11月22日(水) 9:00～ | 農学部弥生講堂一条ホール | 東京大学21世紀COEプログラム 機械システム・イノベーション事務局 TEL:03-5841-7437http://mechasys.jp/ |
| 地震研究所一般公開・公開講義 ※16ページ参照 | 11月24日(金) 一般公開 10:00～ 公開講義 15:00～ | 一般公開 地震研究所1号館公開講義 安田講堂 | 地震研究所 アウトリーチ推進室 通常はがき 〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 電子メール openlec@eri.u-tokyo.ac.jp (件名は、申し込みの場合は「申し込み」、問い合わせの場合は「問い合わせ」としてください) 電話(問い合わせのみ) 03-5841-5643 |
| The 3rd International Symposium on Innovative Aerial/Space Flyer Systems ～翔を極める～ | 11月24日(金) 25日(土) 9:00～ | 武田先端知ビル5F武田ホール | 東京大学21世紀COEプログラム 機械システム・イノベーション事務局 TEL:03-5841-7437http://mechasys.jp/ |
| 行事名 | 開催期間 | 場所 | 連絡先・HP等 |
| 東京大学法学部連続講演会 「高齢化社会と法」 | 第5回 10月21日(土) 第6回 11月11日(土) 時間 13:30～15:00 (受付: 13:00～) | 第4回・第5回 法学政治学系総合 教育棟101教室 第6回 法文1号館1階 22番教室 | 東京大学ビジネスローセンター (B L C) 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 TEL :03-5805-7298 FAX :03-5805-7143 http://www.j.u-tokyo.ac.jp/%7ebclc/ |
| 第105回東京大学公開講座 「ロボット新世紀」 ※4ページ参照 | 9月30日(土) ～10月28日(土) (各土曜日 全5回) | 安田講堂 | 東京大学総務部内 財団法人 東京大学総合研究会 電話 03-3815-8345 http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/d04_01_j.html (東京大学 ホームページ→社会人・一般の方へ→公開講座) e-mail:kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp |
| 2006年度冬学期 「高校生のための金曜特別講座」 | 10月6日(金) ～1月12日(金) | 教養学部11号館 2階1106教室 | http://high-school.c.u-tokyo.ac.jp/ |
| 第34回生研公開講座イブニングセミナー 「環境のための物質・材料工学最前線」 | 10月6日(金)～12月 22日(金) (11月3日、24日を 除く各金曜日 全 10回午後6時から) | 生産技術研究所 (駒場リサーチキャンパス) | 生産技術研究所 総務・広報チーム TEL 03(5452)6863、6866 FAX 03(5452)6071 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/ |
| 特別展「一高校長 森巻吉とその時代一向陵の興廃この一遷にあり」 ※13ページ参照 | 10月7日(土)～12月 3日(日) 10:00～18:00(入 館は17:30まで) 毎週火曜日休館 | 総合文化研究科・教養学部 駒場博物館 1階美術博物館展 示室 | TEL 03-5454-6139 FAX 03-5454-4929 http://tdgl.c.u-tokyo.ac.jp/bihaku/ |
| 特別展示「東京大学コレクション 一写真家上田義彦のマネリスム博物館」展 ※15ページ参照 | 11月3日(金・祝) ～平成19年1月28日 (日) (休館日もあります のでご確認ください) | 総合研究博物館 | ハローダイヤル 03-5777-8600 URL: http://www.um.u-tokyo.ac.jp |
| APRU Distance Learning and the Internet 2006 Conference テーマ: Technology Enabled Global Knowledge Structuring | 11月8日(水) ～10日(金) | 農学部弥生講堂 一条ホール | http://apru2006.dir.u-tokyo.ac.jp/ |

Contents

特集

- 02 東京大学環境報告書2006
- 04 東京大学公開講座「ロボット新世紀」開催中！

NEWS

キャンパスニュース

- 05 本年度第1回「東京大学総長賞」の受賞者決定

部局ニュース

- 06 先端科学技術研究センター自衛消防隊、自衛消防活動審査会にて最優秀賞受賞！
- 07 教育学部附属中等教育学校で「第47回銀杏祭開催」
- 07 史料編纂所附属前近代日本史情報国際センター設立記念式典及び祝賀会の開催

コラム

- 08 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第1回
- 08 さすてなTimes Vol.3
- 09 調達本部です 第16回
- 09 コミュニケーションセンターだより No.23
- 10 Flags運動部紹介 No.22
- 11 Crossroad～産学連携本部だより Vol.4
- 12 龍岡門横丁噺 第5回

◆ 表紙写真 ◆

東京大学環境報告書2006・表紙
(2ページに関連記事)

INFORMATION

シンポジウム・講演会

- 12 第9回AMSシンポジウム「Prospects for the New Frontiers of Earth and Environmental Sciences」開催のご案内

お知らせ

- 13 特別展「一高校長 森巻吉とその時代—向陵の興廃この一遷にあり」
- 14 「教養学部報」第496(10月11日)号の発行—教員による、学生のための学内新聞—
- 14 利用入門セミナー開催のお知らせ
- 15 特別展示『東京大学コレクション—写真家上田義彦のマニエリスム博物誌』展のお知らせ
- 15 ホームカミングデイ開催迫る！
- 16 “留学生向け情報探索ガイダンス”実施のお知らせ
- 16 地震研究所公開講義・一般公開のお知らせ

17 人事異動

18 EVENT LIST

淡青評論

- 20 「そのうちなんとか」

[訂正]

学内広報において、一部誤りがありましたので訂正いたします。

関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

No.1343 (2006.9.27)

5ページ12行目及び写真キャプション

誤：駒場コミュニケーションセンター

正：駒場コミュニケーション・プラザ

編集後記

今号から教職員によるリレーエッセイ「ワタシのオシゴト」が始まりました。学内の人でも、所属部署は知っているが具体的にどんな仕事をしているのか実はよく分からない、ということはありませんか？このコーナーはそんな悩みを解決するためにできた…と見せかけて、東大で働く皆さんの人柄が垣間見えるような、遊びの要素を取り入れたコーナーを、ということで作りました。ハンドルにも遊びがあるからこそ運転がうまくいく、ということで、息抜きに読んでみてください。意外な本音が書いてあるかも?? (と)



七徳堂鬼瓦

「そのうちなんとか」

淡青の空の下、午後の会話。

「博士課程に進学したいのですが」；今日に限って端正に見えなくもない顔だけど、本気がかい。

「じっくり研究がしてみたくて」；のんびりじゃないだろうね。少年易老学難成と言うよ。

「家族も応援してくれていて」；今のうちだね。仏顔の間にせいぜい頑張った方がいいよ。一寸光陰不可軽とまでは言わないけれど。

「先輩も結構リッチで楽しそうだし」；確かにDCで月20万、PDで40万弱、もっと高給の博士研究者もあるけど、皆がなれる訳じゃないよ。

「指導してもらえますよね」；いくら私が丹精してみても博士号と任期付職が関の山だろうけどね。君の希望するアカデミックポジションの常勤職は難しいよ。博士研究者がやたら増えたのに常勤職は減っているのだから。

「食っていければ贅沢はいりません」；30年前に聞いた名誉教授の「飢え死にした人はいないよ」というセリフと、最近「今じゃ博士進学は自殺行為、勧誘は自殺補助」と言った知りあいの教員の顔が交互に頭を過ぎるんだけど。

「結婚や育児を考えると少し不安ですが」；明日は無職かもしれないからね。研究者に少子化の選択圧が余分に掛かると絶滅危惧種になる可能性があるかも。

「やはり好きなことをやれる生活が幸せかと」；雑用と会議漬けの私を見ているだろうに、学生の間は未覚池塘春草夢ということか。そもそも私は今好きなことをやっているのかな。そういえば最後に顕微鏡を自分で操作したのは何時だろう。階前梧葉已秋声ってことだな。

「一応迷ったのですが」；で、何で決心を。

「先生を見ているとなんとかなるかと思ひまして」；嘆声。

馳澤 盛一郎（大学院新領域創成科学研究科）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1344 2006年10月11日
東京大学広報委員会

〒113-8654
東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課
TEL：03-3811-3393
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
<http://www.u-tokyo.ac.jp>